



一日まるごと人形劇！



～いいだ人形劇フェスタ 2015 竜丘公民館マラソン公演～



毎年恒例となった人形劇マラソン公演が八月七日(金)公民館で行われ、大勢の観客でにぎわいました。一会場では一日中人形劇が見られるということで、十時の開演時には三百人を超える観客が集まりました。マラソン公演のトップを飾ったのは、兵庫県内を中心に活動している人形劇団「おまけのおまけ」によるパネルシアター「ねこのおいしゃさん」「三匹のやぎ」それに人形劇「ハラペコくん」の上演でした。今回で十回目の参加ということで、フェスタ実行委員会から劇団名の入ったのぼり旗をもらい、ステージ横へ立てての公演でした。お話と歌を

飯田の夏の風物詩「いいだ人形劇フェスタ二〇一五」が八月四日(火)に開幕しました。今年も地区のワッペン公演として、六日の竜丘公民館を皮切りに全十七劇団による公演が竜丘地区内で行われました。

毎年恒例となった人形劇マラソン公演が八月七日(金)公民館で行われ、大勢の観客でにぎわいました。一会場では一日中人形劇が見られるということで、十時の開演時には三百人を超える観客が集まりました。マラソン公演のトップを飾ったのは、兵庫県内を中心に活動している人形劇団「おまけのおまけ」によるパネルシアター「ねこのおいしゃさん」「三匹のやぎ」それに人形劇「ハラペコくん」の上演でした。今回で十回目の参加ということで、フェスタ実行委員会から劇団名の入ったのぼり旗をもらい、ステージ横へ立てての公演でした。お話と歌を

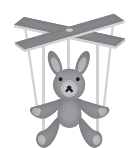
組み合わせたパネルシアターでは、子どもたちと劇団の人と一緒に歌を歌い、会場が一体となつて劇を楽しんでいました。竜丘小学校三年の木下将志君と吉川翔琉君は「パネルシアターの三匹のやぎで、ガラガラどん



が大きいやぎにやられるときが目玉がぐるぐる動くところが面白かった。草を食べてお腹がふくれる様子を風船を使って表現しているところがよかった。と、その時の風船を片手に笑顔で感想を語ってくれました。続いて和室で人形劇団「やつぽー」による手作りの折り紙を使った「いなかねずみとまねねずみ」、人形劇「おいしいカレー屋さん」、サークル室ではマリオネットどんぐりによる「ブレイメンの音楽隊」、

午後六時の部では大ホールで人形芝居めい遊による「ねずみのよめいり」が上演されました。楽しい歌とかわいいうめいりの人形を使った一人芝居でした。上演終了後は、子どもたちにねずみの人形を見せてくれたり、一緒に写真を撮ったりと、触れ合う機会があり、子どもたちにとっていい体験となりました。和室では人形劇ブチぶどうによる「さいごのまほう」、サークル室では「すー」のティンクルシアター「ぼんたのじどうはんばいき」、人形劇団なみによる「3びきのこぶた・ではない」が上演されました。

マラソン公演のトリは、文楽米人形座による伝統人形芝居です。劇団名に「米



が入っているのは、アメリカの人形劇団だからで、二〇〇三年から毎年フェスタに参加し、六月から八月の二ヶ月間、大学生を連れて飯田市内にホームステイをしながら今田人形座で文楽を学んで発表を行っていました。

しかし、今回は大学生はおらず、滋賀県の長浜で学んだ富田人形「三番叟」と人形が獅子頭を持つて舞う「天婦獅子舞」を上演してくれました。どちらの演目も二人一組で一体の人形を操り、息の合った素晴らしい伝統人形芝居でした。座長のオルマンさんより、来年は大学生を十五人ほど連れて来たいので、一カ月ほどホームステイさせてくれる家があればぜひお願いしたいとの話がありました。

恒例となった竜丘公民館のマラソン公演、大人も子どもも一日中人形劇に夢中になり、楽しめた一日となりました。

その後、三つのテーマに



誰とは申しませんが、

が入っているのは、アメリカの人形劇団だからで、二〇〇三年から毎年フェスタに参加し、六月から八月の二ヶ月間、大学生を連れて飯田市内にホームステイをしながら今田人形座で文楽を学んで発表を行っていました。

七月二十三日(木)に、市政懇談会が開催されました。当日は百三十人を超える住民が参加しました。

最後に分科会のまとめ報告があり、「竜丘の社会教育の綿々としたつながりを今後継続してもらえよう支援したい」という市長の感想で、閉会となりました。

ただ、市長の説明にもあったように、市の借金である地方債が、減ったとはいえない現在でも約七百億円あり、単純に人口で割ると市民一人当たり約七十万円の借金になるわけです。その現状を踏まえ、「地域で、自分達ができることは何か」を議論する場が今回の分科会だったと思うのです。大半の方々はそのことを理解しており、議論の時間がなくなっていくのを惜しんでいたように思います。

しかし、先程も言ったとおり「千人十色」です。ここで問題だったのは、そのような意見をよい意味であらう、より建設的な議論の場に戻せなかったことです。みんな「誰かが言ってくれないか」と黙っていたのではないのでしょうか。かく言う自分もその一人であり、反省しきりです。

進行役や自治会の方も大変だったと思います。でも、よく考えてみると、あの場には地域の役員よりもその場を上手に収めることができる人がいたような…。



発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館広報委員会
印刷所
龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口	6,934人
男子	3,369人
女子	3,565人
世帯数	2,508戸
(27年8月末現在)	

顕微鏡でのぞく水辺の世界 第十四回 水辺の楽校交流イベント

育成委員長 関島 隆夫

九月六日(日)小雨のぱらつく中「第十四回水辺の楽校交流イベント」が天竜川水辺の楽校で、子供・大人・スタッフ合わせて約二百名の参加があり開催されました。飯田市美術館博物館の四方先生、かわらんべの中村先生、ミナト光学工業株の今村先生に講師をお願いし、三グループに分かれて水生生物、昆虫の顕微鏡観察を行いました。

水生生物では、時間も忘れるほど皆夢中で探索し、カワムツの稚魚、ザリガニ等多くの生物が捕獲され、

昆虫では、トノサマバッタ、シヨウリヨウワバッタ、ハグロトンボ、クワガタ、チョウ、コオロギ等が観察できました。

初めての試みでしたが、地元企業の協力を得て顕微鏡で草花の花弁や葉っぱ、幼虫等を見ました。また、ちよつと変わったところで十円玉の鳳凰、千円札の野口英世の目玉等を覗いて、びっくりしたり、グロテスクに見えたり、子どもたちが興味深く覗く姿が印象的

でした。その後、ニジマスの塩焼きをほおばり、最後は金魚つかみに挑戦しました。ニジマスも数十匹放流したので、大変賑やかにできました。

このような体験が少なくなつた今日において、このイベントが貴重な体験学習と改めて感じました。

予定外の場面に遭遇しても、皆の知恵と工夫と協力により解決してしまう力に感心しました。

講師の先生方そして実行委員の皆様、雨中ご苦勞様でした。ご参加いただいた皆様ありがとうございました。今後、この水辺の楽校をもっと多くの方・団体に利用していただけることを期待するところであります。

先日の市政懇談会では、分科会形式での意見交換が行われ、様々な提案や意見交換がなされました。

ヤフ収

ある分科会では、「地域で」「地域が」という都合のよい言葉で地域や住民に押し付けるのではなく、行政が主導し、税金により解決すべきものだ」という趣旨の発言がありました。思ってもみない発言に一瞬、進行役や行政側も回答に苦慮しているようで、他の参加者も沈黙し、まとめることも難しい場面でした。

ただ、市長の説明にもあったように、市の借金である地方債が、減ったとはいえない現在でも約七百億円あり、単純に人口で割ると市民一人当たり約七十万円の借金になるわけです。その現状を踏まえ、「地域で、自分達ができることは何か」を議論する場が今回の分科会だったと思うのです。大半の方々はそのことを理解しており、議論の時間がなくなっていくのを惜しんでいたように思います。

国際色豊かに 交流深まる JICA 研修

今年も参加型地域社会開発(PLSD)研修の飯田研修が一週間の日程で行われました。六ヶ国十四名の研修生が八月二十五日、二十六日の二日間竜丘を訪れ、地域自治の仕組みや公民館活動について学び、地域資産である古墳や資料館、鈴岡公園などを視察しました。



今年、アフガニスタン、コロンビア、フィジー、ケニア、フィリピン、タンザニアから研修生が訪れました。竜丘での研修の受け入れは十九回を数え、長年自治活動に関わった方々によ

る各種の講義が行われました。一昨年前からはフィリピン・レガスピ市からの研修生も加わり、公民館建設に向け、より実情に近い活動や施設を学んでもらうため、近年区民センターの建設を終えた駄科分館での研修を取り入れました。今年三月には、視察の経験を活かした公民館がレガスピ市タイサン村に完成し、運用が開始されました。研修に訪れた皆さんがリーダーとなり、地域に自治の心が芽生え活発な活動が展開されることを期待します。

JICA 研修

駄科分館長 澤柳眞治

八月二十六日には、駄科で研修が行われました。

当日は、午前六時半頃まで雨が降っていて心配していましたが、塩澤区長による鈴岡公園の案内が始まるころにはそれほど露っぽくなく歩くことができました。続いて新井原集会所の活用状況を視察した後、駄科区民センターに戻り、分館活動を紹介しました。さらに、他に住民の力を結集した事業について尋ねられ、駄科北平地区における六十年程前の「北平水道布設工事と維持管理」の話をしました。

参加者の中で印象に残って



大人の学校 野楽路による昼食会

いるのは、アフガニスタンの研修生アリスさんです。体格のよい精悍な顔つきの青年で、研修の意義を貪欲に吸収しようとする意気込みが質問から感じられました。

やはり、事を起こすには「人」と「カネ」がネットワークだと思いがすが、研修生の皆さんが帰国されたから研修で得たものを活かされることを期待します。



華やかな心地よい音楽に ひたるひととき ～ふるさと「サート」～

今年も恒例のふるさとコンサートが七月二十日(祝)に行われました。開会に先立ち、竜丘コーラスの皆さんの歓迎の歌声が披露され、余韻に浸る中、ステージ脇からレッドカーペットを通りサクソフォーンカルテットの桜のメンバー四人が登場

すると、会場から歓声が上がるのと同時に、これから始まるステージに期待が膨らみました。はじめに、サクソフォーンのソプラノ、アルト、テノール、バスの音を奏でながら、自己紹介と合わせて、それぞれのパートの説明がありました。その後、オリジナル曲「SAKURA」を始め、演奏が行われました。それぞれの曲はみな迫力があり、また、クラシカルな演奏に会場は心地よい空間に包まれました。メンバー交代のときには音楽にまつわるエピソードも披露され、親しみも感じまし

た。「情熱大陸」の曲の際は、みなリズムをとりながら聴き入りました。リクエストコーナーでは、当日が誕生日の女性指名され、「サウンドオブミュージック」が演奏されました。さらに、「さくら」に「さくら」の二重奏で、



の合同演奏があり、音楽のすばらしさと感動を届けてくれました。

長野原納涼夏祭り

新区民広場の落成を兼ねて
新しい会場で行われた



第三十六回長野原納涼夏祭りが八月十五日に行われました。今年度は会場の区民広場が金山神社前から区民センター横に移転し、落成記念も兼ねた夏祭りとなりました。

祭りの冒頭、前澤区長の挨拶では、長年の懸案であった区民広場移転にあたり、地権者・関係業者の皆さんへのお礼と、スポーツや区民の

駄科夏祭り

それぞれそれぞれ駄科だに

「駄科音頭」で盆踊り

八月十五日、恒例の第三十七回駄科夏祭り(分館主催)が地区民約四百人を集め駄科諏訪社で盛大に行われました。

昼の部、ゲートボール大会や魚のつかみ取りが行われ、神社脇の水路では、二ジマスを手掴みしようと、全身びしょ濡れになりながら



の文字が浮かび上がり、落成記念に花を添え、盆踊りでは、幼児からお年寄りまでが輪になって踊り、祭りを盛り上げていました。売店では焼き鳥の完売をはじめ次々に売り切れ、多くの区民が夏休みの終わりを新しい区民広場で楽しみました。

も奮闘し歓声を上げる子供達の姿が見られました。鈴岡太鼓の勇ましい演奏を皮切りに始まった夜の部。赤紫のオリジナルTシャツで揃えて気合の入った青壮年会の屋台や、明星学園の手作り小物の販売、金魚すくい等の夜店が並び、子供花火大会や、うちわ抽選会で盛り上がりしました。

り曲として五十人以上の盆踊りの輪がやぐらを囲みましました。中でも青色のオリジナル浴衣を着た女性達が華を添えていました。

広げたい「ふたつの輪」 ～あいさつ運動の標語決定～

七月にあいさつ運動の標語の募集と選考が行われました。今年の最優秀賞には「おはようの あいさつびびく 通学路」が選ばれました。何よりも、「通学路」という言葉が印象的で、朝出会う人同士があいさつを気持ちよく交わせる、そんな情景が目につく作品です。

八月十九日には表彰式があり、最優秀賞ほか五つの作品が選ばれました。それぞれに思いが込められた標語で、竜丘地区にあいさつの輪がさらに広がることを期待されます。

八月二十六日は一斉行動として、小学校の校外指導部の方々と登下校の街頭指導・あいさつ指導が行われました。また、九月四日までの二週間は

平成二十七年 あいさつ標語

最優秀賞

六年二組 中島 優奈

「おはようの あいさつびびく 通学路」

優秀賞

四年一組 勝見 心温

「あいさつは 笑顔になる 愛こぼし」

三年二組 北澤 瞳月

「あいさつは こしカクンで テカイ声」

館長賞

二年一組 小嶋 凌吾

「あいさつで ちいきに広げる えがのわ」

育成委員長賞

五年一組 岡島 春奈

「地いきから 明るくあいさつ 広げよう」

PTA会長賞

五年二組 宮下 和奏

「あいさつは えがのドアの かぎなんだ」